

超学際研究の実現における課題

Challenges to achieve transdisciplinary studies

近藤昭彦(千葉大学CEReS)

- ①ステークホルダーとは何か、誰か
ステークホルダーの階層性、利害の不一致、対立
- ②問題の解決とは、必要なものは
信頼と諒解、際を超える(安岡、私信)
- ③グローバルという主体はあるのか
地域ごとに固有の人と自然の関係性
- ④複数の政策の誠実な仲介者 (Pielke, 2007)
個人と組織の関係

①ステークホルダーとは何か、誰か

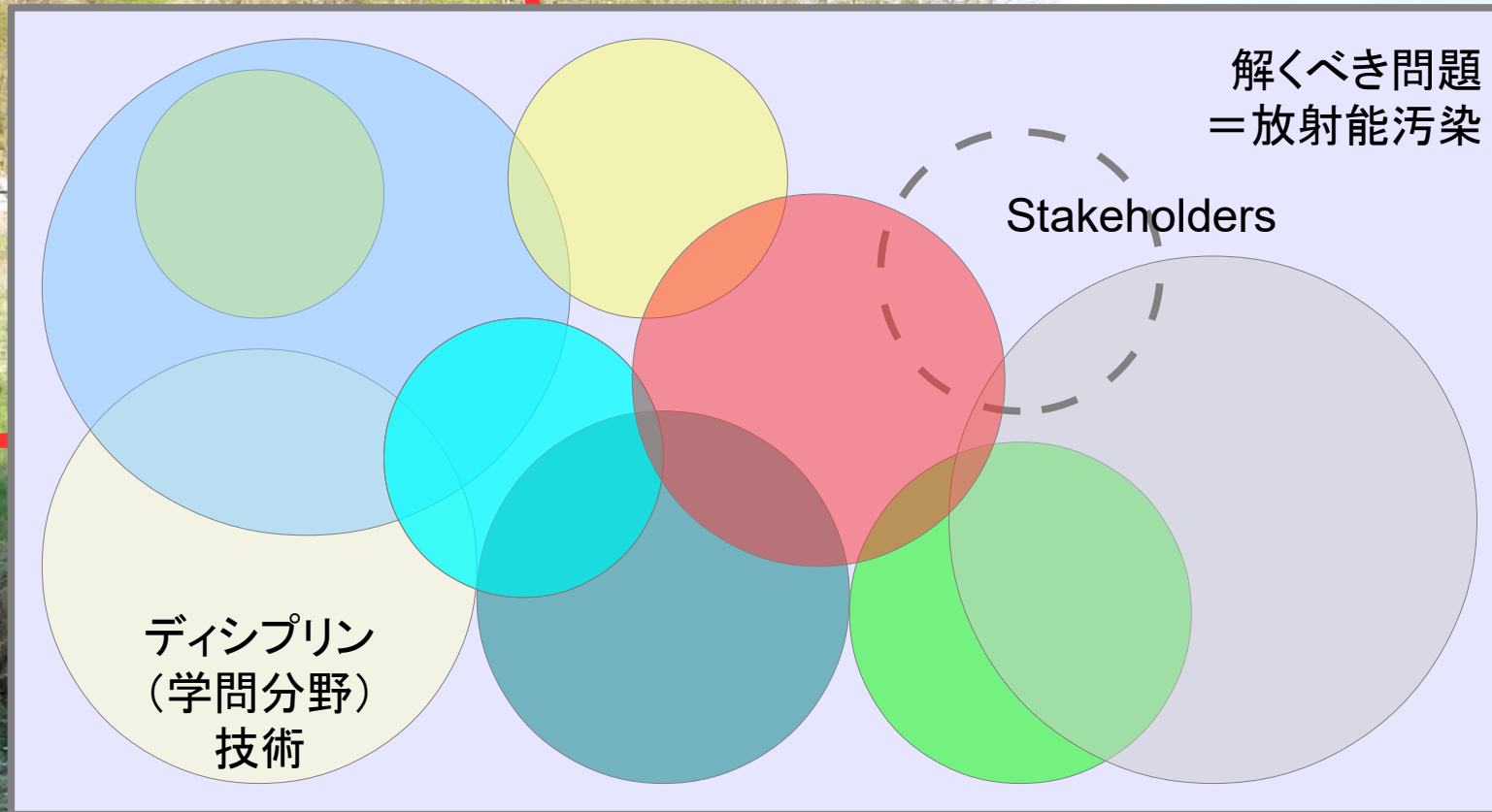
- 広域放射能汚染で突然暮らしが奪われたという現実
- Solution-oriented science. . . 学問に力はあるのか

どんな“ステークホルダー”と協働するのか
世界・国・地域・現場、担当者・当事者、. . .

様々な尊重すべき科学者の立場

Transdisciplinarity達成の困難

⇒問題の解決を共有する枠組みの中で役割を果たすということ



参画と協働

鳥越皓之著「環境社会学」図15-1 科学の守備範囲の模式図をベースに作成

- 個々の研究者の役割はこのフレームの中で
相対化されていく... 容認できますか？
- ステークホルダーの階層性⇒別のフレームの出現

●超学際研究の実現における課題

●①ステークホルダーとは何か、誰と協働するのか

ステークホルダーの階層性、利害の不一致、対立
折り合い、諒解ができる問題、困難な問題、強いられた諒解
切れば血が出る問題の現場

●②信頼 (TRUST) をどう醸成するか 超学際研究実現の前提

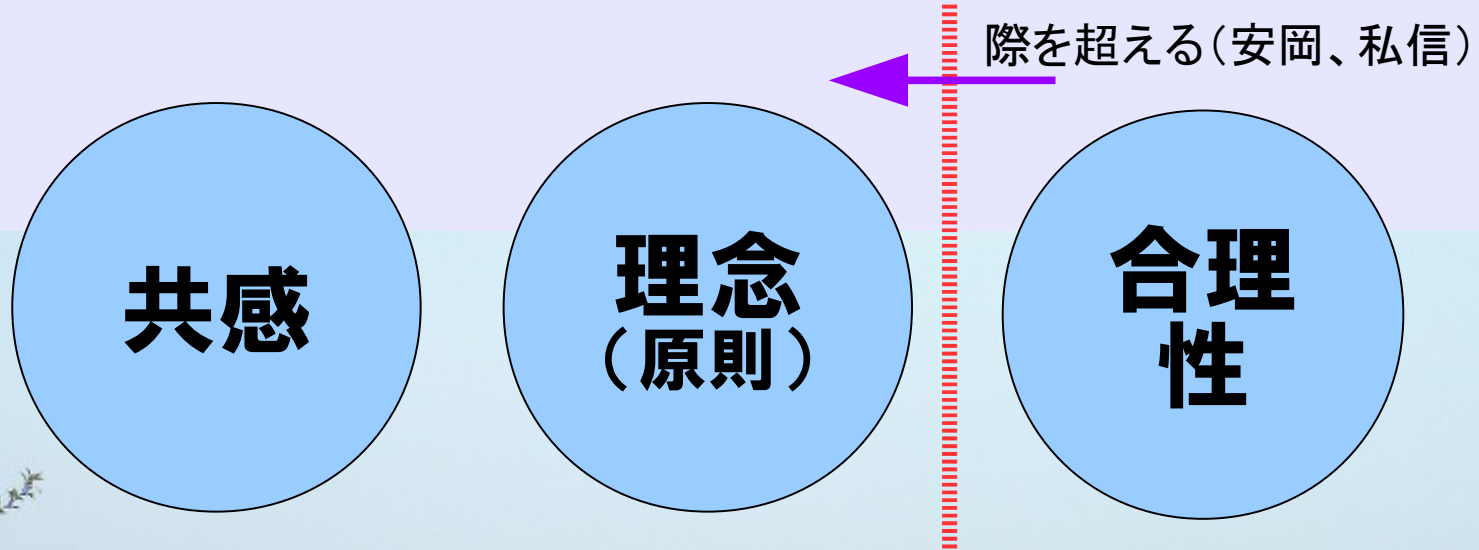
合理性基準＋共感基準、理念(原則)基準の共有
目的の達成を共有した協働のフレームの中で役割を果たすこと

●③グローバルとローカルを巡る世界観、自然観の違い

世界観、自然観の相違の顕在化
社会系、計画系研究者と理学系研究者の意識する世界

②問題の解決を共有するための信頼

解決≡諒解、合意形成



共感

人と対峙し、問題を
“わがこと化”すること:
関係性の認識

Transdisciplinarity領域

**理念
(原則)**

めざすべき社会の
あり方を共有ある
いは尊重すること

Interdisciplinarity領域

**合理
性**

現象認識において
科学的合理性に
基づくこと

③グローバルとローカルを巡る世界観、自然観



グローバルな環境問題=脳内環境問題

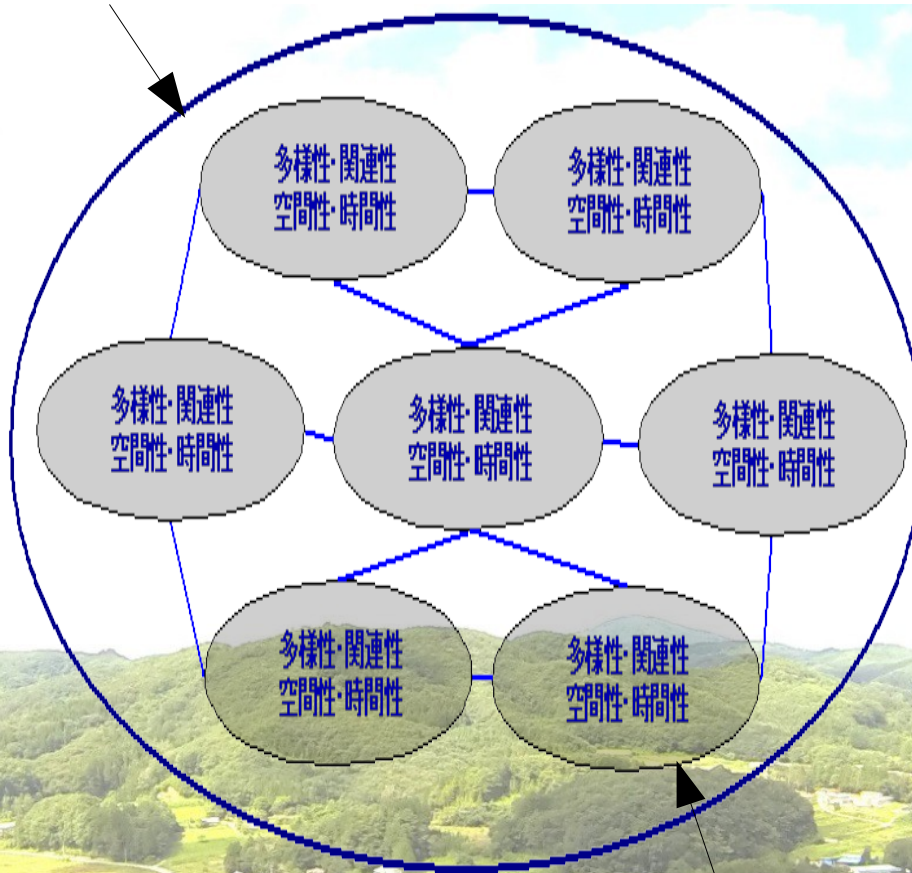
A

世界は、相互作用する多数の地域から構成されており、全体としてシステムとして機能する。



地球システムを良好な状況に導くための、普遍的な方法がある？

注) 普遍的な方法があるとする、それは規範的なものではないか。



ローカルな環境問題 = リアルな環境問題

B

世界は、相互作用する多数の地域から構成されており、グローバルはフレームとして捉えられる。



地域が良くなることで、地域の集合体としての世界が良くなる。

普遍性はトップではなく、ベースにある。

【閑話休題】

本書は、「人類にとっての生存基盤である環境」とか、「人類が共通に解決すべき地球環境問題」など、大上段に構えたところから環境と社会を語らない。むしろ、こうした語り口は、「脳内環境問題」として揶揄される。(関礼子ほか、「環境の社会学」、有斐閣アルマ、2009)

超学際の実現 — 印旛沼流域圏交流会 —



印旛沼流域圏交流会

印旛沼流域圏交流会へようこそ

いんばぬま情報広場 | 印旛沼流域圏ニュース | 活動報告 | あるものさかし

おしらせ 第14回(2016年度)印旛沼流域環境・体験フェアは10月29日、30日の予定で開催されます！佐倉ふるさと広場に集まろう！

おしらせ 第5回印旛沼・流域再生大賞 募集は4月下旬に募集開始の予定です！

私たちが印旛沼は、どのようなつながりがあるのでしょうか？

水道水として利用している市民は、千葉市、浦安市、船橋市、印旛沼流域市町など、農業用水として、工場用水として、流域の鳥など生物のため、景観豊かな心が癒される憩いの場所として・・・などなど、多くの恵みを頂いています。

また、印旛沼の歴史は古く、利根川東遷以前から重要な場所として人々と関わってきた暮らし、文化、歴史を今も垣間見ることが出来ます。

その印旛沼は、現在千葉県民の重要な水がめとして、県民の4人に1人は印旛沼の水を飲んでいると言われていますが、ご存知のように水質は全国ワースト1を競っている状況です。

この課題を解決するために、印旛沼流域水循環健全化会議では、流域での話し合いの場「印旛沼わいわい会議」、「印旛沼再生行動大会」等を行政からの動きと併せて活動してきています。一方市民団体は、流域での「里山保全 河川の浄化活動」ゴミ拾い、子どもたちの環境学習など活動しており、この活動がもたらしている印旛沼再生へとつながることも意識するようになりました。

この思いを形にとり、市民主導での「(仮称)印旛沼流域圏交流会」を設立し、キックオフミーティングを開催することになりました。交流会呼びかけ人は、川崎夕子・堀山清美・桑原田和子(環境パートナーシップ)氏、近藤昭彦(千葉大学)です。呼びかけ人のお仲間も募集しています。

印旛沼流域圏の皆さまと緩やかに連携・協働し、印旛沼が良くなり、暮らし、地域が元気になる話し合いの場として活かしていきたいと思えます。

ホームページに関するお問い合わせはこちらまで。

印旛沼流域における水循環健全化を通じた地域づくりに市民が関与するため、流域の市民やNPO等の団体、行政、大学等が緩くつながるための仕組みとして発足。

県主催の印旛沼流域環境・体験フェアに市民企画部会として運営に参加。



第13回印旛沼流域環境・体験フェア

入場無料

印旛沼を楽しむイベントが盛りだくさん!!!!!!!!!!!!!!

2015.10.24(SAT) 11:00~15:00 | 10.25(SUN) 10:00~14:00

@佐倉ふるさと広場 向かい側

水と食と発見のある印旛沼

概要

日時：2015年10月24日(土)11時~15時、25日(日)10時~14時
※雨天時は両日とも中止

場所：佐倉ふるさと広場向かい側(京成佐倉駅北口からシャトルバス運行)

主催：千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議
共催：印旛沼水質保全協議会

後援：千葉県河川協会(公財)印旛沼環境基金・印旛沼環境団体連合会・千葉県工業用水協会(公社)日本水道協会千葉県支部・利根川治水局千葉支部(公社)佐倉市観光協会(株)千葉銀行(株)千葉日報社(株)ベイエフエム・千葉県印旛地区 郵便局(株)広域高速ネット296・北総鉄道(株)成田ケーブルテレビ(株)東葉高速鉄道(株)・聖隷佐倉市民病院・印旛郡市土地改良協会

協力：農事組合法人 鹿島

●流域関連イベント
9~10月にかけて、フェアに出展する団体等が主催する様々なイベントが予定されています。詳しくは、以下を参照下さい。

http://inba-numa.com/fair/13/

問い合わせ先

事務局：印旛沼流域水循環健全化会議(千葉県国土整備部河川環境課)
☎ 043-223-3155 | ✉ kawakan2@mz.pref.chiba.lg.jp

●開催・中止の確認方法
フェア前日(10/23)から音声案内で、開催もしくは中止を御案内します。
☎ 0180-99-1600 (※通話料が発生します。)

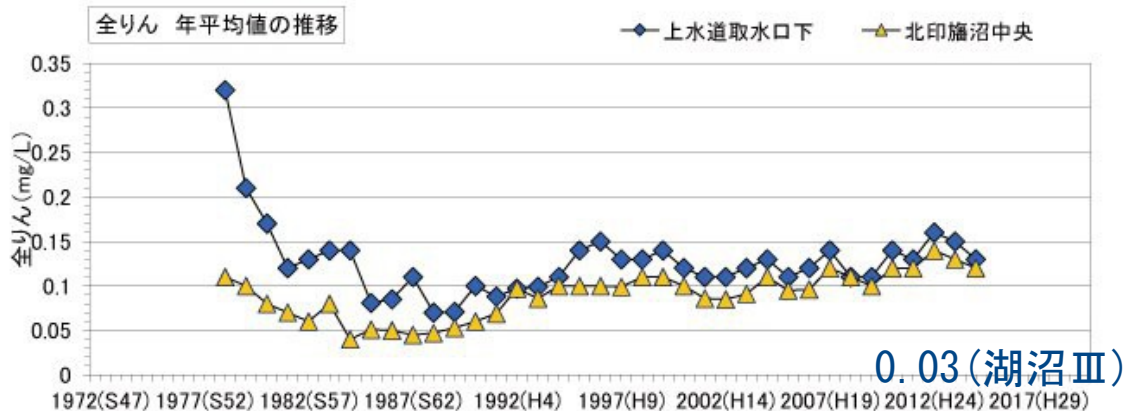
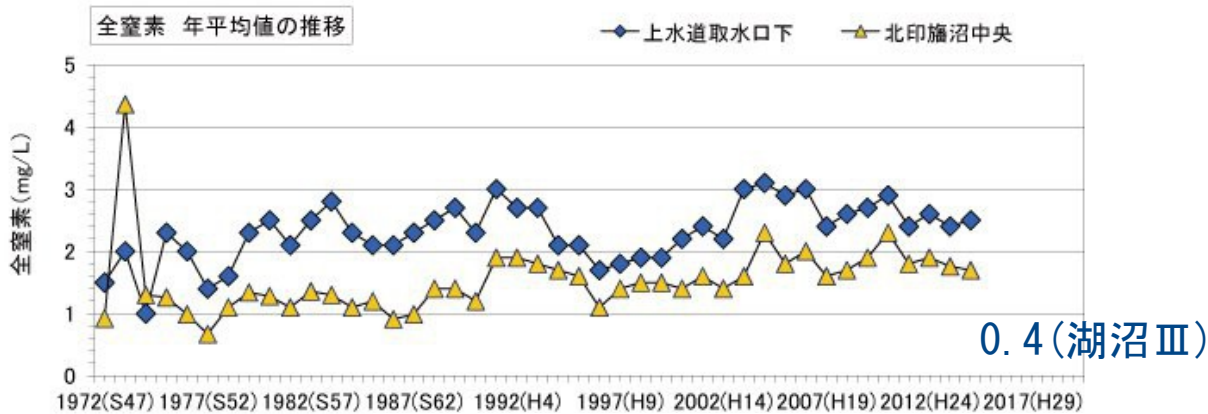
千葉県マスコットキャラクター チーバくん

●市民が集った理由は—印旛沼の水質



ふるさと印旛沼の
水質が改善しない

第2期行動計画
第7期湖沼水質保全計画



- 解くべき課題の共有
- 共感・理念・合理性の共有
- トップダウンとボトムアップの融合

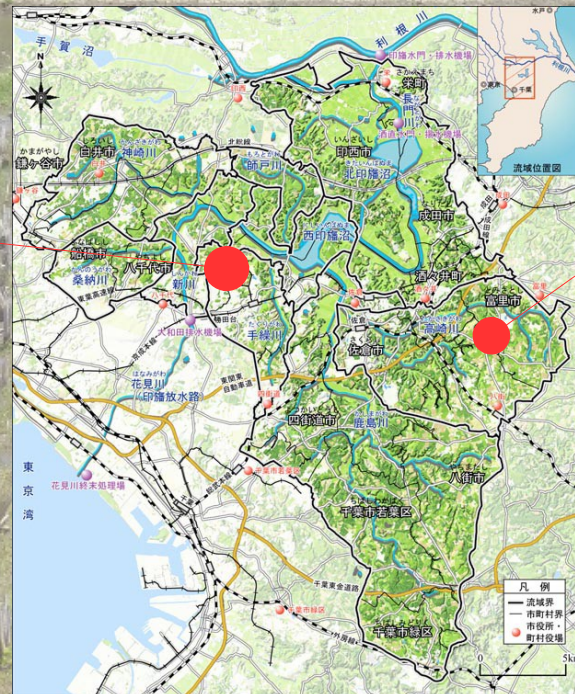
●窒素循環—市民と協働する研究—

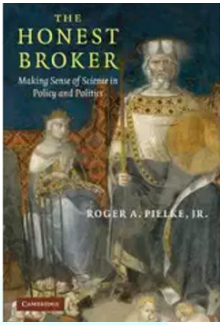
- ・研究者セクターでは、メカニズム中心アプローチ
 - ・研究者間の学際
 - ・FEでは、現場における超学際アプローチ
 - ・市民との協働
- ⇒ボトムアップ型アプローチ

佐倉畦田谷津



富里天神谷津





④ FEサイエンティストのポジション

科学観

民主主義観

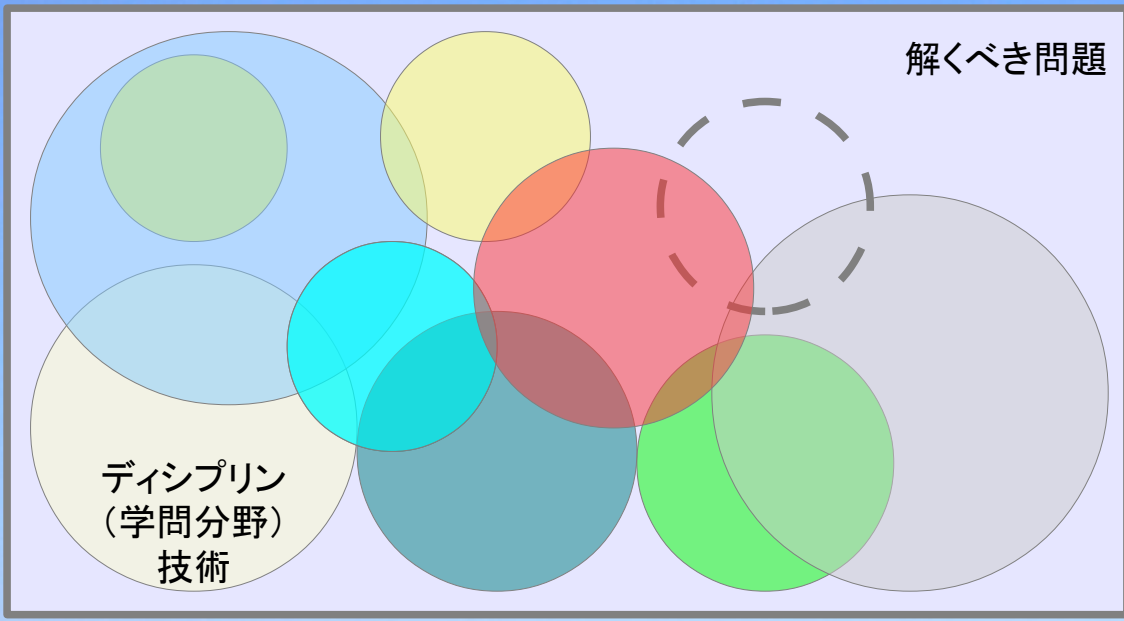
		View of science	
		Linear model	Stakeholder model
View of democracy	Madison	<p>① 純粋な科学者 Pure Scientist 政策には関与せず 研究の成果を提示</p>	<p>③ 論点主義者 Issue Advocate 研究成果をもとに特定の 政策を提言、主張</p> <p>個人</p>
	Schattschneider	<p>② 科学の仲介者 Science Arbiter 研究成果を政策に提言</p>	<p>④ 複数の政策の 誠実な仲介者 Honest Broker of Policy Alternative 研究に基づき可能な複数の 政策を提言</p> <p>組織</p>

リニアモデル： 科学者と政策決定者の間は一方的

ステークホルダーモデル： 科学者が自らの科学的研究を政策決定に活かそうとする場合

マディソン型： 専門家の提供する話題は誰に利用されても良い

シャットシュナイダー型： 政策決定にはまず専門家がまず有効な選択肢を提示



鳥越皓之著「環境社会学」 科学の守備範囲の模式図をベースに作成



TRANSFORMATION

目的の達成を共有した協働の
フレームの中で役割を果たすこと

⇒新しい研究の評価基準の必要性

